

日野市立教育センター一所報

教育センターだより



平成21年2月19日
調査研究事業研究発表会

日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分

～午後5時15分



新しい学習指導要領への移行期を迎えて

日野市教育委員会

委員長職務代理者 馬場 武

教育基本法が改訂され、学習指導要領も大きく見直しされました。その中で「生きていくための基礎と基本」の徹底と、科学技術創造立国としての立場から理数教育の充実が重視され、理数の教科は今年の4月から先行実施となっています。昨年、ノーベル賞に4名の日本人が選ばれ、科学の先進的な偉業に、あらためて、日本として大切にしていかなければならないことがあることに気付かされたのではないのでしょうか。

国際数学・理科教育動向調査（TIMSS 2007）によると学力全体としては上位を維持していますが「学ぶ意欲」や「学習習慣」に問題があり、「記述式」の推論の問題（習得した知識を用いて、複雑な場面を正確に読み取り、解決にあたる問題）の平均正答率が低いとの結果が出ています。新しい学習指導要領では、理科の学習時間を増やし、習得した知識及び技能を活用する学習指導を行い、自ら学ぶことの意義や関心意欲を高め、「思考力・判断力・表現力」等を育成することが重要視されています。「理科離れ」が言われて久しいですが、ようやく本腰を入れて取り組むようになってきたのは喜ばしいことです。勿論、このような意欲や能力の育成の重要さは他教科においても同じであると言えます。

本年度、日野市で「日野市学校教育基本構想」が策定され、第1項目 確かな学力の向上【ひのっ子学力の向上プログラム】の「主要施策」でこの趣旨が盛られ、理科教育の充実が取り上げられています。本年度から幾つかの市内の学校でICT活用の教育の推進と併せて、また、体験を学力にの先進的な授業研究が進められ、成果を挙げていることは頼もしいかぎりです。

このことは子どもの側から言えば単に知識の習得ではなく、体験した事実や知識を活用し関連付け、自分の考えで論理を組み立て、発表する体験を多くすることを意味しています。そして、それは又、「子どもの知を鍛える」ことでもあります。多くの知識を得ても、子どもの能力は必ずしも向上するとは言えないことは、これまでの指導経験からもはっきりしています。心の強さと豊かさ、学力の向上は「子どもの知を鍛える」ことによって確かなものになると考えています。

教師は子どもにわかりやすく上手に教えると言う観点から、「子どもの知を鍛える」との発想の転換が求められています。そのための学習活動は、自然観察・実験・飼育活動・ICT活用等の体験を重視したものになります。そして、子どもが新たな知識を獲得する過程で、いままでに得た知識や経験と結び付けたり、また、これからの学習で活かすことができたりするよう配慮することが大切です。

平成20年度小学校理科教育実態調査（国立教育政策研究所、科学技術振興機構）によると、小学校の担任の半数以上が理科を苦手とし、教職十年未満の若手教員においては60%を超えていて、約70%が理科の指導法についての知識・技能が低いと感じています。日野市内のJSTモデル校3校の意識調査（教育センター）も同じ傾向を示しています。教員の力不足を解消しなければ、子どもの知は鍛えられないことは自明の理であります。これを克服するためには校内における実践的な研修会・研究会で切磋琢磨することが最善ですが、このような研修会を多く持つことは難しいのが現状です。

本年度から、教育センターで調査研究事業として理科教育推進研究会が設置され、その目的に「理科教育の質的改善を図る教育センターの役割・支援のあり方を明確にする」とあります。教師の苦手意識は実際に自分が教材の観察実験を体験してないことに大きな原因があります。実技があやふやでは指導法を研修しても、発想の転換は難しいでしょう。センターが実技研修の場として、現場に即した授業実践の場としての役割を果たすことを教育に期待しています。

1. 調査研究事業活動の概要

日野市の教育課題に挑戦する教育センター調査研究部では、関係諸機関のご協力の得ながら実施してきた、「教職員研修の在り方に関する研究」「ICTの活用に関する研究」「理科教育推進の研究」「郷土教育推進研究」の4研究の経過ならびに成果を去る2月19日に当研究センターにおいて発表致しました。以下、今年度の調査研究事業の様子をご報告かたがたお知らせいたします。

1. 教職員研修の在り方に関する研究

－教職員研修在り方研究委員会－ 基礎調査研究係

日野市の教職員研修は、教育委員会設定の研修、校内研修、教育研究団体（小教研・中教研）及び個人研究等の自主的研修があります。それぞれが、役割分担的に教職員の資質向上を目指して研究、研修を進めています。日野市の教職員研修は、それぞれの研修の内容や関連の体系的な在り方を充実させることによって、研修会の内容、研修体系を高めることが求められています。本研究委員会では、そのことを踏まえつつ、主として教育委員会設定の研修会の在り方を中心的に論議し、本委員会の研究課題である①日野市の教員に求められる教師の姿 ②日野市の教員が身につける力 ③日野市の教員研修体系④若手教員の指導力向上について検討を進めてきました。

本研究委員会の研究課題についての報告

1. 日野市の教員に求められる教師の姿（教師像）

- ・ Sense of Map
（ Mission 使命 Action 行動 Passion 情熱の精神 ）
- ・ 深い子ども理解
- ・ ICT活用等の高い授業力

2. 日野市の教員が身に付ける力

昨年、都教委は新しい教員研修の方針の中で、学校教育に対する都民の期待の高まり、それに伴う教育活動の充実を図るために、教員が身に付けるべき4つの力を提起しました。主に教育活動において求められる『学習指導力』と『生活指導力・進路指導力』そして、学校のあり方、今日的な課題への対応として求められる『外部との連携・折衝力』と『学校運営力・組織貢献力』の4つであります。それに、日野市独自の重点課題であるICT活用教育、特別支援教育、小中連携教育、学校教育基本構想を推進する上で必要な力（指導力）を適用して作成しました。

3. 日野市教員研修体系

研修体系の見直し、検討に当たって、教職員アンケートを実施し、教員はどのような研修会を期待し、求めているのかを把握しました。作成に当たっては、①都教職員研修センター、日野市の研修体系（20年度）に準拠する。②忙しい現場の実態を考慮して、研修会の実施回数を抑えた。校内OJT研修を充実させていく方向を重視する。③日野市の重点課題であるICT活用教育、特別支援教育、小中連携教育、さらに日野市学校教育基本構想を重視する。④若手教員の指導力向上を重視することに留意し、作成しました。

4. 若手教員の指導力向上について

- ・ 学級経営の基盤である「授業力」と「生活指導力・進路指導力」の向上を重視しています。指導上の悩みもこの二つに関するものが多いです。したがって、初任者研修・校内OJT研修の充実を図り、授業力・専門性の向上、生活指導力・進路指導力の向上を高める。他に、学習指導要領、特別支援教育に関する研修会の要望が多かったです。

*** * 「日野市の教育が求める教師の姿」「日野市の教員が身に付ける力」「日野市教員研修体系」の詳細については「教育センター紀要」をご覧ください。**

2. ICT を活用した実践的な研究

— ICT 活用研究委員会 —

教育経営係

「教科を深めるICT活用」授業研究会の実施

本年度の教育経営係の担当は「ICT活用研究委員会」です。この委員会の事業の主な柱は2つ、1つは「授業活用」実践研究としての「ICT活用実践部会」が、もう1つはICT活用の条件整備や維持などの検討の場としての「環境整備策定部会」が組織され活動してきました。

◆ ICT活用実践部会 ※詳しい内容は後日発行の研究紀要参照

「教科を深めるICT活用」授業研究会

数学 「三次元動的幾何ソフトで学ぶ空間図形」 単元名 「面を動かしてできる立体」

講師 筑波学院大学教授 垣花京子先生 信州大学教授 東原義訓先生

2月4日(水) 日野市立日野第三中学校 被服室

授業者 今川美香教諭 授業クラス 1年2組

使用ソフト Cabri3D、授業のレシピ集 (ENJOY MATHEMATICS in 3D) 他

国語 「バタフライ・マップ法で育てる論理的思考力・表現力」

単元名 「優れた表現効果を読み取ろう」

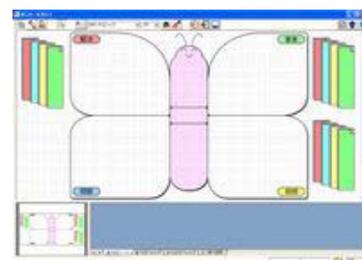
講師 信州大学教授 藤森裕治先生

信州大学教授 東原義訓先生

2月10日(火) 日野市立日野第二小学校 図書室

授業者 関口佳美教諭 授業クラス 6年2組

使用ソフト スタディノート・ポスター機能、
バタフライマップ法



算数 「学習記録に基づく個に応じた指導」

単元名 「比べ方を考えよう ～百分率とグラフ～」

講師 信州大学教授 藤森 裕治先生

2月10日(火) 日野市立日野第二小学校 パソコン室

授業者 上杉園子教諭 木部美行教諭(南平小) 授業クラス 5年3組

使用ソフト インタラクティブスタディ

それぞれの教科の授業研究会においては、九州など他県からの参加者をはじめ日野市内外の多くの参加者のもと活発な研究協議が行われました。ICTの効果的活用についての研究成果が今後市内の各校で実るよう願っています。

◆環境整備部会

1 ICTマーク審査制度の設置・実施

日野市の学校に設置されたICT機器の授業や校務への積極的活用、及び情報セキュリティ向上の面から、学校におけるICTマーク審査制度を定め、ICT活用の質の向上、そしてこの面における地域・保護者の信頼の獲得を目指すことになりました。

最初の取り組みとして「情報セキュリティ」審査を行い、年度末には「授業活用」、「校務活用」を行い、評価の基準に達している学校には、マークの認証を行いました。

2 アナログ放送廃止に伴うデジタルテレビ放送視聴システムの対応

来年度以降の検討課題として残りました。



3. 理科教育推進研究

一 理科教育推進研究委員会 一

教科教育係

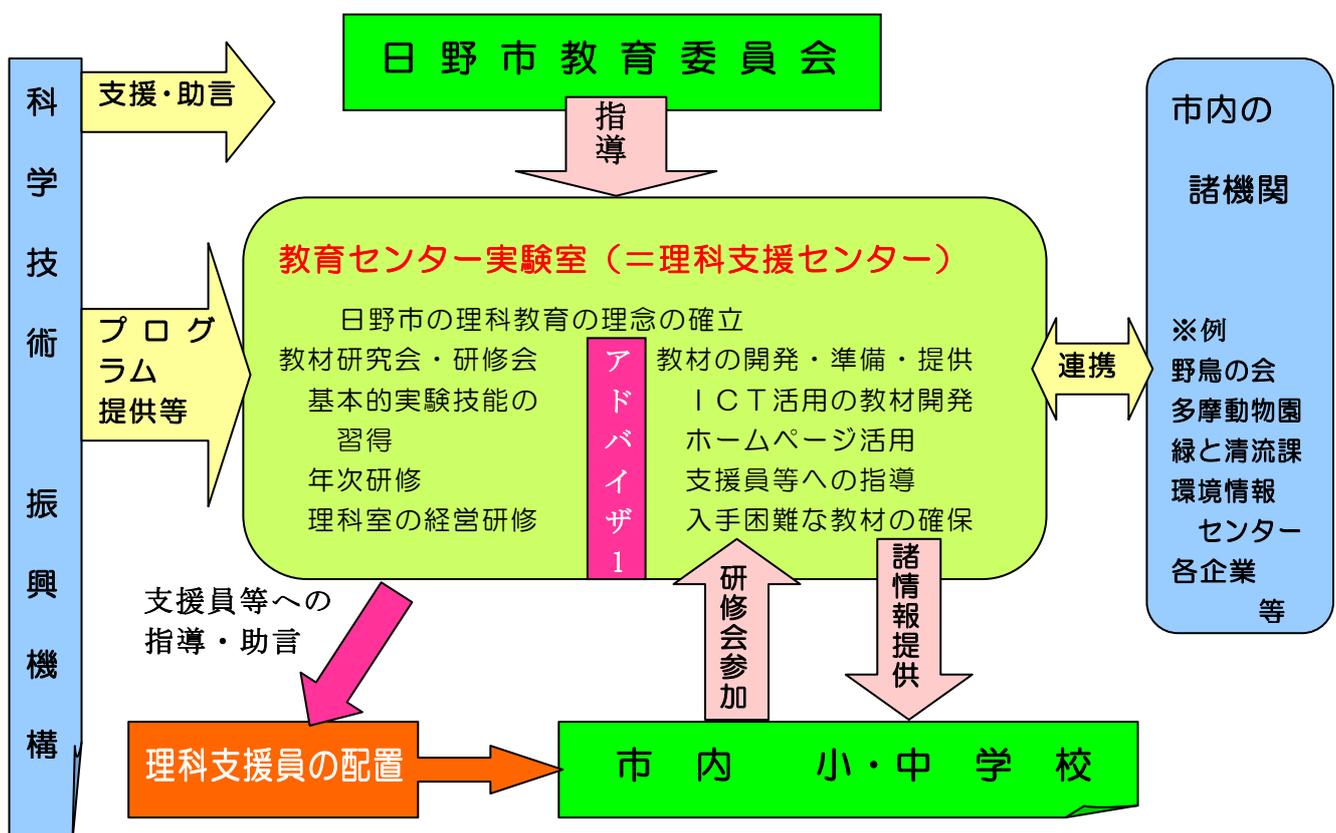
1. 「魅力ある理科授業の展開とひのっ子の基礎学力の向上」を研究テーマとして研究を進めました。
2. 今、なぜ教育センターでの理科教育を推進するための研究が必要なのでしょうか（研究の主旨）
 - * 1：日野市の進めているICT活用教育を理科授業の改善に役立てる
 - * 2：理科デジタル教材の活用化（JSTの研究）の研究を推進する
 - * 3：現在、日野市においても理科教育の質の向上が喫緊の課題となっている
 - ※ これらを総合的に捉え、ひのっ子の理科教育の学力向上に繋げていくためには、教育センターとして全体を見通して具体的に研究を進め、課題を解決していくことが重要です。
3. 研究の目的

誰でも好きになる魅力ある理科授業のあり方を構築し、ひのっ子の理科の基礎学力の向上を図るために、日野市の理科教育の質的改善を図る教育センターの役割・支援のあり方を明確にします。
4. 具体的な研究の進め方 ～いくつかの組織を統轄して研究組織を作りました～

理科教育推進研究委員会の中にひのっ子教育21開発委員会及びモデル校を包含した組織とし、各組織が各目標に向けて研究を深め、この研究を基に相互に関連づけ理科教育推進研究委員会で包括的に研究を進めました。
5. 研究の成果 ～教育センター理科実験室（＝理科支援センター）の役割りの構想～

研究の結果、下記のような構想で、平成21年度から理科支援センターの組織を立ち上げ、各校への支援を進めることにしました。

<日野市立教育センターの役割構想図>



4. 郷土教育推進に関する研究

一 郷土教育推進研究委員会 一

ふるさと教育係



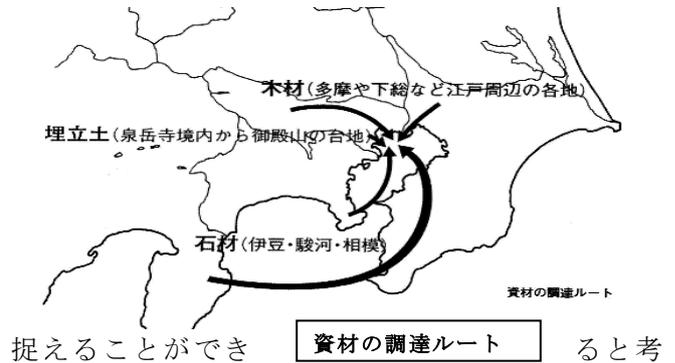
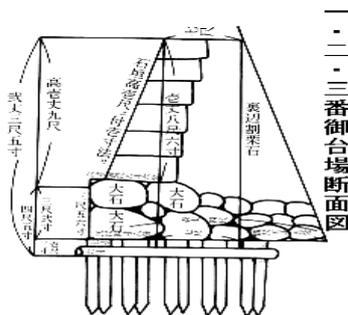
本委員会では、「郷土日野」を愛し誇りをもつ「ひのっ子」を育成するために、学校における日野の郷土教育のあり方の研究を進めています。本年度の研究の内容は、『教育センター紀要第5集』及び「研究報告書～『郷土日野』指導事例第4集」にまとめられています。ここでは、その一部をご紹介します。

1. ペリー来航と日野の人々

ペリー来航(嘉永6年6月3日に浦賀沖に出現)に関する史料は国内各地に残されており、多摩地域にも多数ある。例えば、八王子市の秋山家(蘭方医)には、ペリーの肖像画や国書受け取り時に警護にあたった千人同心の手紙が残されている。また、御台場に使用する松の切り出し(50ヵ村、延べ7,262人、3,967本の松丸太)に関する文書(鍮水村大塚家)も残されている。さらに、五日市憲法で有名な深沢家や谷保村(現国立市)の本田家に黒船の絵がある。『日野市史』には一般的な記述しかないが、土方家文書として「異国船渡来一件之写」などが残っています。

この文書は、黒船が浦賀に来た際、警備に当たっていた四藩や浦賀奉行などの報告書、御台場の設計見積書などです。当時を知るには一級の資料であるが、出版業界の進展に伴い書き写されたようで、ほぼ同じ文書が『神奈川県史』や『大日本古文書』、『品川町史』などで活字化されています。また、日野宿の助郷総代をしていた柴崎村(現立川市)の名主鈴木平九郎の「公私日記」にも黒船や御台場の築造に関して多く記述されています。これらの史資料を活用することにより、日野市域の人々が国防の一環として築造された御台場への負担を知り、同時に江戸時代から明治時代への大きな

時代の動きを身近に
えて教材化しました。



捉えることができ 資材の調達ルート ると考

2. 鎌倉幕府と真慈悲寺

頼朝が武家政権をつくり全国支配の道を歩んでいった過程の中で、具体的事例として真慈悲寺と中央集権国家を目指す鎌倉幕府との繋がりを理解させる教材です。

(3) 幕府と朝廷			
展 開	④ 鎌倉幕府の中央政治組織と律令制の仕組みとはどのような違いがあるのだろうか。	・ 鎌倉幕府の中央集権政治を目指す仕組みを律令制と比較させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平氏による朝廷や政治への関わり方と、源氏による鎌倉幕府の武家政権の違いをおさえ、合理的組織づくりに気づかせる。 ・ 写真「空から見た鎌倉」や京・鎌倉の位置を示す地図をヒントにする。
	⑤ 頼朝が鎌倉に幕府を開いたわけを話し合う。	・ 頼朝が鎌倉の地に幕府を開いた理由を、軍事面と政治面の二面から考えさせる。	
	⑥ 頼朝が地方支配を進めた仕組みを調べる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 守護・地頭の役割を調べさせる。 ・ 幕府が朝廷とは別に守護・地頭を置くことで全国支配に向けた基盤づくりを形成していったことに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幕府の地方支配の様子について、「鎌倉街道」「真慈悲寺」にふれ、「頼朝」や「鎌倉」や「権力」の意味を考え、また、我が地と鎌倉の繋がりが考えられるようにする。

II. ひのっ子教育21開発委員会の研究

—ひのっ子教育21開発委員会—

研究テーマ：魅力ある理科授業の展開とひのっ子の基礎学力の向上

～観察・実験融合型デジタル教材の活用を通して～

1. 今年度の研究の目的

- (1) 日野市の理科教育の質的向上を目指し、従来の実験・観察指導に加えてデジタル教材を活用することで、より魅力ある理科授業を展開できるよう、理科を教える教師の指導力を向上させます。
- (2) これらの授業の展開を進め、最終的には科学に興味を持ち、科学的な目で考えることが出来る児童・生徒の育成を図ります。

2. 委員会の構成：各校から教諭または主幹 一名ずつ参加して委員会を構成。

< デジタル教材活用授業：5年[台風と天気の変化]>

3. 教科：小学校、中学校共に理科

4. 委員会開催回数：年間18回開催

5. 研究・実践の経過及び結果

- (1) [理科ねっとわーく]利用者登録と活用化
活用するために、理科を指導する小・中学校教員が[理科ねっとわーく]利用者登録を行い、活用化を進めました。(教員の登録100%)
- (2) 授業実践を通して活用研究を進める



《おすすめのデジタル教材》どのような場面で活用することが効果的なのか様々な観点から活用の仕方をまとめてデジタル教材を検討し、「理科ねっとわーくおすすめのコンテンツ」としてまとめ、活用化を進める一助としました。

《デジタル教材を用いての授業のあり方》これらの実践の結果、デジタル教材を活用した授業のあり方については、理科の授業の骨格を明確にし、さらなる具体的な実験・観察を着実に
行い、これまで言葉や黒板・資料等で説明してきた内容を、このデジタル教材に置き換える
ことにより、効果的に活用できることがわかってきました。

(3) 各学校の活用率の向上化へ向けて

特に小学校では、この開発委員会の実践と共に、モデル校を3校設け共に実践を深めてきました。各校の開発委員が中心になって実践を進めてきました。

6. 研究の成果と今後の課題

- (1) 研究の成果：これまでの研究で得られた成果として次のことが上げられます。
 - ・理科学習における児童・生徒の関心や意欲の向上、問題意識が高まることを確認
 - ・理科を指導する教員を含め、教員全体が「理科ねっとわーく」利用者登録を行った結果、いつでも活用できる環境が整った。
 - ・開発委員が実践を基に、活用事例の指導案を作成したり、「おすすめコンテンツ」の作成を進めるなど、各校の利用に当たって中心となる教員が育ち始めてきた。
 - ・開発委員が中心になって実践化を進めた結果、いくつもの学校で活用化が進み、観察・実験を基本にした理科授業の中で活用の仕方に深化がみられてきている。
- (2) 今後の課題：更に次のこと等について実践を深める必要があります。
 - ・今後もさらにデジタル教材活用の授業を進め、より身近な教材とし活用化を図る
 - ・活用充実のため研修等と情報共有化に向け、実践報告のサイトの活用化を推進する。

Ⅲ. 研 修 部

一教職員研修係一

「日野市教育委員会主催研修会」から

昨年4月よりスタートした研修会名と内容及び出席人数をお知らせします。

今年度の反省と来年度へむけて

月	日	研 修 会 名	内 容	出席人数
4	3	学校組織マネジメントⅢ	日野市の教育施策について（新補・転補）	5名
5	14	幼児教育研修会	地域に根ざした幼稚園の子育て支援について	22名
5	16	学校組織マネジメントⅠ	学校評価の在り方	20名
5	23	情報安全教育研修会	ネットいじめの実態と対応	20名
5	23	学校組織マネジメントⅡ	学校評価の在り方	15名
5	29	学校組織マネジメントⅢ	学校の活性化と組織マネジメント	31名
5	30	授業力アップ研修会	2・3年次研修の計画と目的について	60名
6	25	幼児教育研修会	なぜ今、食育なのかー背景と取組ー	43名
7	23	専門研修全体会	午前 新学習指導要領の目指す教育・講演会 午後 教師としての専門性・講演会	571名 542名
7	24	学校組織マネジメントⅠ	学校評価の在り方と方法	29名
7	24	学校組織マネジメントⅡ	学校評価の在り方と方法	24名
7	25	伝統文化教育研修会	国語科における古典の指導ポイント	2名
7	28	理教教育研修会	理科ねっとわーくの活用方法の理解	17名
7	29	言語教育研修会	午前 NHK放送研修センターアナウンサー 午後 「話す力・聞く力・読む力・伝え合う力」	42名 22名
7	31	道徳教育研修会	道徳の授業・命の大切さを学ぶ	28名
7	31	郷土教育研修会	豊田地域の歴史と教材化について	23名
8	1	伝統文化教育研修会	午前 国語科における古典の指導のポイント 午後 古典文学の指導・落語	7名 20名
8	4	環境教育研修会	日野市の自然についてフィールドワーク	21名
8	4	食育研修会	食生活と日野の伝統料理の調理	15名
8	7	生命尊重教育研修会	多摩動物公園にて生命尊重を学ぶ	10名
8	7	英語活動研修会	英語活動の実践事例を学ぶ	13名
8	20	特別支援教育	発達障害の理解	60名
8	21	授業力アップ研修会	自らの授業改善について	60名
8	22	授業力アップ研修会	自らの授業改善について	60名
8	25	特別支援教育	発達障害への支援方法	46名
8	27	英語活動研修会	英語活動の実践事例を学ぶ	9名
8	28	学校組織マネジメントⅢ	学校経営計画作成に向けて	35名
8	28	伝統文化教育	書写指導のポイントと実践について	6名
9	11	道徳教育研修会・心の教育研修会	授業を通じた道徳教育の在り方	21名
9	24	幼児教育研修会	幼小連携と教育現場の取組	25名
10	22	幼児教育研修会	幼小連携について	26名
12	1	情報安全教育研修会	ケータイ世界の子ども	20名
11	12	幼児教育研修会	認定子ども園への取組と現場から見た幼少連携	23名
11	6	人権教育研修会	人権教育の全体計画・年間指導計画の作成	21名
2	27	学校組織マネジメントⅢ	学校組織の活性化と主幹の役割	31名

今年度より研修担当3名が初任者40名の授業観察を担当することとなりました。2・3年次教員60名のグループ研修にも出席して授業についてのアドバイス等を行いました。それらについてご意見をいただければ幸いです。

教育相談室の20年度と雑感

教育相談室は、年度当初4月に以下の目標を立てて臨みました。

- ・ 多くの方々に利用される相談室にし、教育相談の啓発に努める。
- ・ 関連機関との連携を推進し、積極的に要望に応える努力をする。
- ・ 学校や適応指導教室等と連携を図りながら相談を実施する。
- ・ 専門性の向上に努め、質の高い相談を心がける。
- ・ 相談環境の充実に努める。

啓発活動としては、パンフレットの配布や学校訪問等を行いました。連携に関しては相談者を中心に考え守秘義務や個人情報を大切にしながら連携を行いました。学校や適応指導教室とも連携協力をして相談の効果を上げることに努めました。専門性の向上のために専門家や医師を招き学んでいます。また、施設見学等にも相談員が積極的に行きました。相談環境については予算がらみで出来る限り改善に努めました。一人一人の問題に真摯に取り組み相談員が知恵を出しながら効果を上げるために努力しました。

来年度も更に相談室充実のため努力をしていきたいと考えています。改善点やご要望等ございましたら相談室までご一報ください。鋭意努力をして参ります。

さて、相談を行って少し気づいたことがあります。決して結論が得られたことではないのですが、それは言葉の問題です。私たちの使っている日本語はよくよく考え吟味してみると、大変曖昧な表現が有るのではないだろうかと言うことです。発達に課題のある人の中には、何気なく話をしているとき抽象的・曖昧な言葉があると理解できなかつたり、行動出来なかつたりすることがあります。話をして「さあ、やろう」というと動かないので理由を聞くと「先生の話していたことは分かるけど、どうすればいいのか分からない。」というのです。つまり指導者が話している“声の存在”は分かるが“内容の理解”はできないと言うことなのです。単純に言った言葉で「チャンとしなさい」とか「早く」と言ったとしましょう。言葉の持つ意味は“チャンと”も“早く”も分かるのです。しかし、何を、どのように、どうすれば“チャンと”なるのかが分からず戸惑うのです。「早く」といっても、どのくらい早いのか、どうすれば早くなるのか、基準になるものが理解できないのかもしれないかもしれません。このように、主語、述語、目的語さらには修飾語、形容詞、副詞や助詞等がはっきりしないので、理解に苦しんでいると考えられます。指示や方向・方法等を具体的にすれば理解できることも増えると考えます。外国語の中には一つとか二つとかの表現を必ず必要としたり、方向、量、可能性等を表すとき、必ず必要な言葉を用いて表現する言語もあります。しかし、日本語は、曖昧なままで、指示する言葉が無くても暗黙のうちに通じてしまうことが多いので、普段は省略してしまうことが多いのです。そのため、人によっては混乱してしまうことが多いと考えます。一つの言葉にいろいろな意味を持たせることは会話を楽にしますが、それだけ相手の気持ちまで推測しなければならないという難しさを含んでいます。相手の気持ちを読むことの苦手な人は特に混乱してしまうのでしょうか。そんな時は、一言一言丁寧に具体的な指示を細かく、理解できる言葉で伝えて欲しいと思います。スムーズなコミュニケーションを図るために必要ではないかと考えました。

新学年になります。1年の中で出来る様になったこと、まだ努力をしなくてはならないことなど、家族で話し合っって次年度の目標や希望につなげられることを願っております。

V.学校生活相談「わかば教室」の活動

一学校生活相談係・わかば教室一

学校生活相談係(わかば教室)は、学校生活における精神的な悩みや人間関係での不安、不登校・登校渋り等、児童・生徒の環境をめぐる問題や通室する児童・生徒に対しての相談・指導・援助、及び、不登校問題に関する状況把握・情報提供や助言等を行ってきました。

「わかば教室」の主な活動は次の通りです。

1 教育相談活動

カウンセラーが、通室する個々の子どもと定期的に継続して面接を行いました。随時保護者や在籍校とも相談してきました。継続したカウンセリングで多くの子どもが精神的に安定し、目標を持った生活をするようになりました。保護者との密な連絡・相談、家庭のゆとりある対応がよい結果を生んでいます。通室者の増加に伴い面接の重要性がますます増えています。今後も工夫改善をしていきます。

2 教育活動

(1) 楽しい体験活動(わかばタイム・行事)



栽培：収穫



保育園奉仕・交流

高齢者施設や保育園では、「心待ちにしていましたよ」「ありがとう」「また来てね」と感謝されました。どの体験活動も参加人数が多く、笑顔・活気・時には涙溢れる感動がありました。活動参加から学習参加加へ、集団の輪の中へと適応の幅・質も高まっています。

(2) 丁寧な生活指導

指導員は本教室の方針に沿って、いつも子どもの状況を掴み個々の理解のもとにより人間関係や健康な身体づくり、望ましい生活習慣の確立等を目指して丁寧に指導しました。安全指導を徹底し事故防止にも努めました。子どもの多くは表情が明るくなり、挨拶や友達との会話も生まれ、友達と時程に沿って行動できるようになりました。毎日朝・昼休みは、皆で、スポーツを楽しんでいます。

(3) 個に応じた学習指導(5教科を中心にした学習タイム)

学年や学習進度、子どもの思い等を考慮して個別時間割を作成し、個別または小集団による基礎的な学習の指導・援助を行いました。楽しそうにパソコンも使い、自分のペースで学習ができ、意欲的に学習する姿も見られました。



パソコンを活用して学習

3 学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力

以上の活動は学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力に支えられています。子どもの活動には、地域の方々やボランティアの学生等の協力が大きかったです。一般教育相談とも日常的に連携し協力しています。

今年度は通室者が増加しましたが、部分登校者や学校復帰者も増えました。今後も子ども理解に努め、子どもたちが目標を持って向上していけるよう援助するとともに、学校に戻れる子どもが一人でも多くなるよう関係者との連携・協力を強めていきたいと思ひます。